

2025

12

にじのはしスパイクリニック土佐診療所

今年最後の土佐診療所報告

運営：ねこねこくらぶ



■ 何度も重ねた打ち合わせと“現地手術”への決断

10月、いの町の住民さんから「猫が増えて困っているんです…」という切実な相談が寄せられたことが今回のスタートでした。相談者のH様・T様とは、捕獲日まで何度もLINEで調整。当初は土佐市役所での手術予定でしたが、「現地のほうが早く、猫の負担も少ない」と判断し、ニコワゴンの強みを生かした“現地手術”へ切り替えました。

■ ねこねこくらぶは“サポート役”に徹する

ねこねこくらぶの捕獲部隊が現地入りし、前日までに手術予定の猫はほぼ捕獲完了。手術当日は、現地の皆さんが設営を担当。体重測定などの重要作業は、メンバーとボランティアさんがテキパキと対応。捕獲器の洗浄など大変な作業は、すべて現地の方が引き受けてくださいました。「やるぞ！という団結力に加え、地域の力って本当にすごい」そう実感した一日でした。

■ 予定していた猫たちはほぼ全頭手術完了

現地の方も「今日だけで一気に終わってよかった」と安堵の表情。どう頑張っても捕まらなかった2匹についても、「来年あらためて土佐市役所へ連れて行きます」と約束してくださり、次につながる前向きな終わり方に……。

■ あらためて感じたこと

“地域が動けば、猫の未来は変わる” 行政でもボランティアでもなく、「困った」と声を上げた住民さんと、「一緒にやろう」と動いた地域の人たち。その力が、多くの猫の命を守りました。小さな一歩が地域の未来を変える。動いた人から、猫も人も救われていく。そんなことを強く感じた一日でした。

■ 感謝

当日、いの町まで足を運びご参加くださった個人ボランティアのU様お二人、そして江川様ご夫妻お忙しい中、私たちの取り組みに思いを寄せてくださることに、心から感謝いたします。にじのはしSC高知分院の尾首先生、そして助手の三木さん。今年も変わらず手術をご担当いただき、本当にありがとうございました。来年もどうぞ土佐診療所をよろしく願いいたします。

